

関西電力管内における平成25年度の夏の電力需給実績検証結果等について

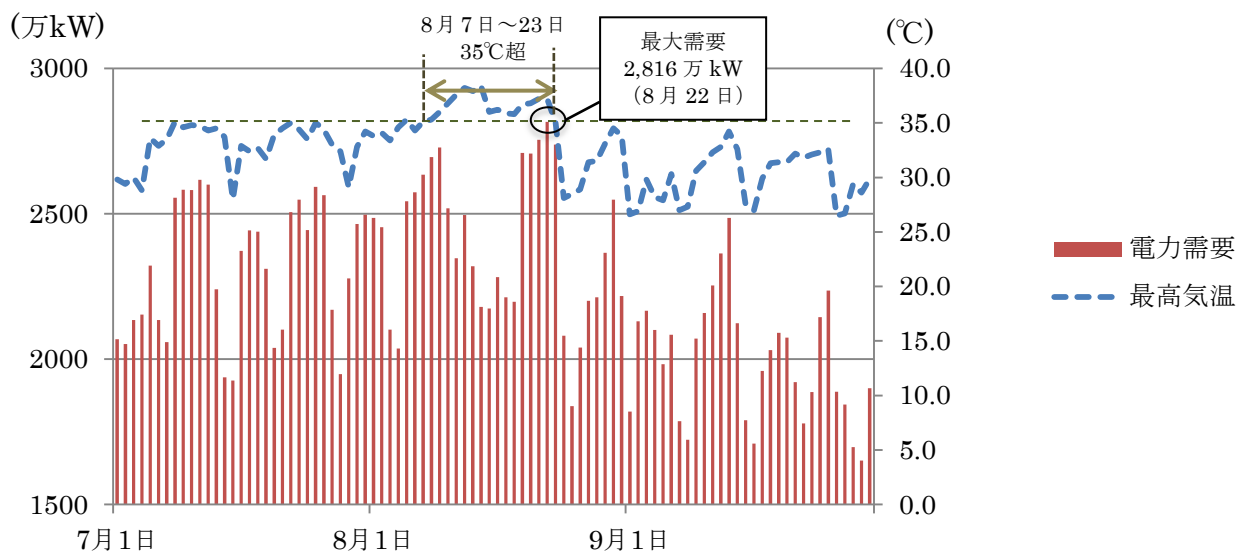
平成25年10月24日
関西広域連合エネルギー検討会
電力需給等検討会議

関西電力管内における平成25年度の夏の電力需給実績や対策の実施状況については、以下のとおり。

1 電力需給実績

(1) 平成25年度の夏の概況

- 4月に行った電力需給検証の時点では、ピーク時（8月）の見通しとして、最大需要は2,845万kW、これに対する供給力は2,932万kWで、期間を通じて3%以上の予備率の確保が可能とされた。
- 今夏は、8月中旬に気温が35℃を超える日が連続したが（7～23日：大阪管区气象台）、土、日曜日やお盆期間に重なって需要が抑制されたこともあって、結果的に需要のピークは8月19日（月）から23日（金）で、2,700万kWを超える日が続いた。
- 最大需要は2,816万kW（8月22日（木））となったが、今夏の最大需要想定値2,845万kWを下回ったことや、火力発電機のトラブルが発生したものの関西電力が追加供給力を調達したことにより、需給ひっ迫にまでは至らなかった。

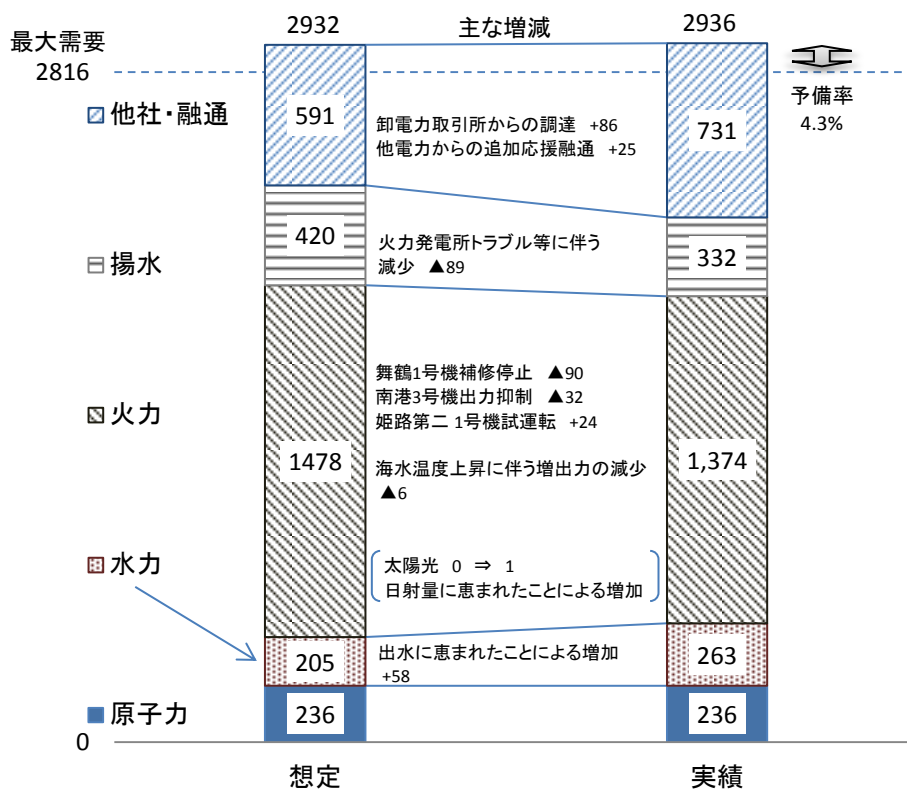


日最高気温（大阪管区气象台）と電力需要

(2) 最大需要日

- 今夏の最大需要の実績は、8月22日（木）14時台の2,816万kWで、4月時点で想定されたピーク需要に迫るものであった。
- 気温が高い日が続くなか、同日も最高気温が37℃を超えて非常に暑く、需要が高くなった。

- 供給力については、同日は舞鶴発電所1号機の停止（▲90万kW）や南港発電所3号機の出力量抑制（60万kW→28万kW（▲32万kW））等の火力発電機のトラブルと重なったが、関西電力は、卸電力取引所からの追加調達（+86万kW）や、他電力会社からの応援融通（+25万kW）などにより供給力を追加して、最大供給力2,936万kW、予備率4.3%を確保し、最低限必要とされる予備率3%は上回った。



今夏の最大需要日における供給力の内訳 (万kW)

- なお、同日は、中西日本全体で、需要が9,232万kWに対し、供給力は9,652万kW、予備率4.5%という状況であった。（8月22日 中西各社のでんき予報実績より）

(3) 大飯原子力発電所停止以降（9月）

- 4月の電力需給検証の時点では、大飯原子力発電所3号機（118万kW）停止後の9月前半の見通しとして、最大需要2,764万kWに対し、供給力2,848万kWで、3%以上の予備率の確保が可能とされた。
- 9月前半の最大需要は、最高気温が34℃を超えた9月13日14時台の2,486万kWで、想定最大需要の9割程度であり、同日の供給力2,584万kWに対し、使用率は96%であった。
- また、大飯原子力発電所4号機（118万kW）停止後の9月後半の見通しとして、最大需要2,469万kWに対し、供給力2,543万kWで、予備率3%以上の予備率の確保が可能とされた。
- 9月後半の最大需給は、9月25日14時台の2,236万kWで、想定最大需要の9割程度であり、同日の供給力2,550万kWに対し、使用率は87%であった。
- 15日以降、使用率が90%に達する日はなく、電力需給は安定していた。

2 電力需給対策の概要

- 関西広域連合では、7月1日から9月30日までの平日を節電要請期間とし、平成22年度夏と比べて9%削減を目安として、昨年並の節電の着実な実施を呼びかけるとともに、家族でお出かけ節電キャンペーンや、構成府県市の率先取組、電力需給ひっ迫時の対応等の対策を実施した。

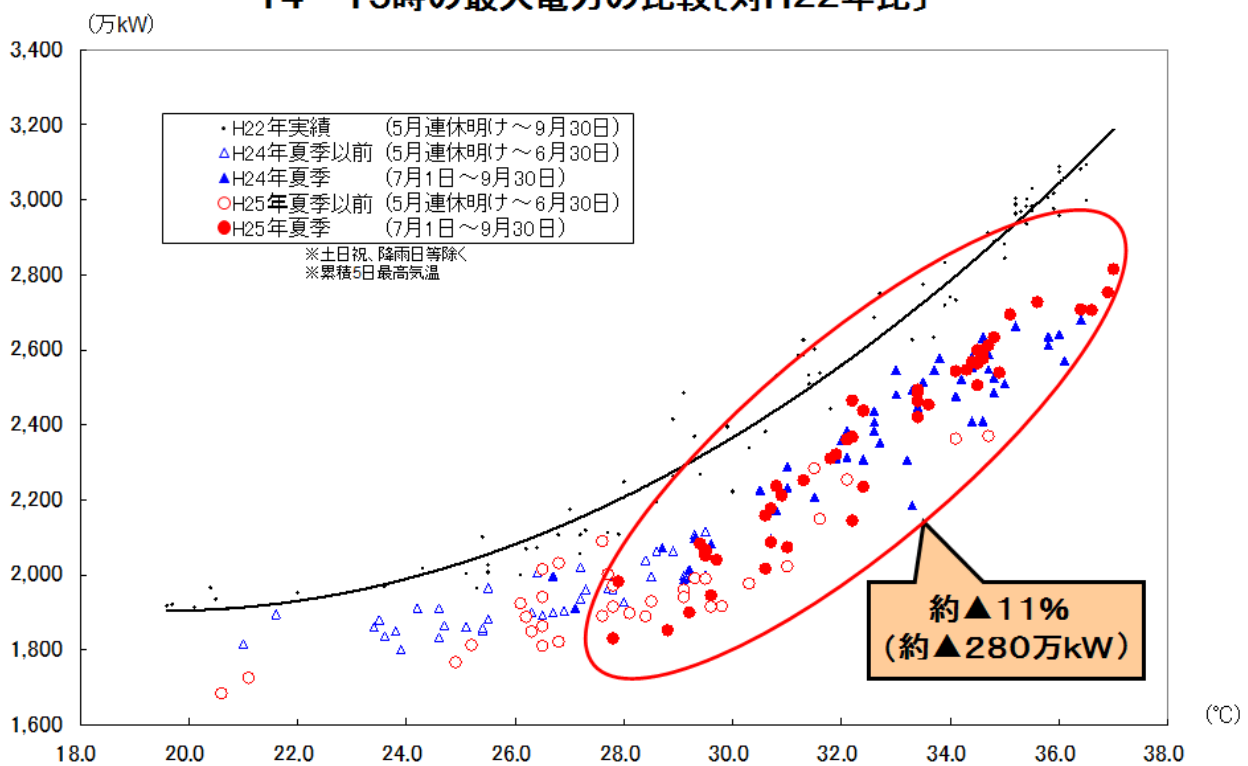
対策の種類	内容
節電の呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭に対する呼びかけ：構成府県市の広報誌やHP、テレビ・ラジオ、節電セミナーや講座・パネル展の開催、街頭キャンペーン等を実施 • 産業・業務部門に対する呼びかけ：事業者や関係団体への節電協力の要請やチラシの配布、セミナーや説明会の開催、節電・省エネ診断や訪問指導等を実施
家族でお出かけ節電キャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> • 美術館、博物館、図書館などの文化施設・公共施設、プール、水族館、動物園などのレクリエーション施設、百貨店、ショッピングセンターなどに、割引やプレゼント、特別企画、イベント等の協力を得て実施。〔参加施設数 1,556 施設〕 • 統一したキャンペーンマークを使用し、構成府県市や関西広域連合HPで協力施設を紹介 • 公共交通機関の主要駅等におけるポスター掲示〔約 3,800 枚〕やチラシの設置・配布〔約 17 万枚〕等による周知 • 環境省の地球温暖化防止国民運動事業が推進するクールシェアとの連携
主な率先取組	<ul style="list-style-type: none"> • 節電目標設定、室温 28℃の徹底、昼休み消灯、室内・廊下等の照明間引き、パソコン省電力設定、OA機器の使用制限 • ノー残業デー、サマータイム、定時退庁、昼休みシフト • 関西夏のエコスタイルの徹底、会議等参加者にも協力依頼 • 道路照明・信号機等のLED化、省エネタイプの機器の導入
電力需給ひっ迫時の対応	<ul style="list-style-type: none"> • 万々に備えた、関係機関への連絡方法や府県市民への周知方法等の確立
(参考) 関西電力の取組み	<ul style="list-style-type: none"> • 電力需給のお知らせ（でんき予報） • 節電・省エネのPR（ホームページや検針票裏面等での周知、“はぴeみる電”の加入拡大等） • 電力需給ひっ迫時に備えた需要抑制の取組み（緊急時のネガワット特約、BEMSアグリゲーターを活用した需要抑制） • 関西電力HPにて「家族でお出かけ節電キャンペーン」を紹介 • 関西広域連合への電力需給状況に関する実績報告

3 節電量について

- 4月に行った電力需給検証時点では、平成25年度夏の定着節電量として、平成24年度夏の節電実績とアンケート結果に基づき、需要の上位3日平均の節電量を、平成22年度夏比▲268万kW（▲8.7%）と想定していたことから、関西広域連合では、平成22年度夏比9%削減を目安に掲げ、7月1日から9月30日までの平日で、昨年並みの節電の着実な実施を呼びかけた。
- これに対し、この期間中の14～15時における平均節電量は、平成22年度夏比約▲11%であり、目安値を上回る節電がされたことが確認された。

（参考）今夏における需要の上位3日平均の節電量の実績は、平成22年度夏比▲324万kW（▲10.5%）

14～15時の最大電力の比較〔対H22年比〕



- また、関西電力が、サンプルデータをもとに推計した分野別の節電量は次のとおり。

	平成22年度夏からの減少量	平成22年度夏からの減少率
産業	約▲90万kW	約▲9%
業務	約▲130万kW	約▲12%
家庭	約▲60万kW	約▲11%
計	約▲280万kW	約▲11%